



白石さんの菜の花畑の象徴となっている菜の花カラーの展望台。休日に限らず、平日にも多くの来場者が訪れていました。展望台から見る菜の花畑は圧巻の一言！

菜の花畑を「観る」

今年も菜の花を見に来られた方から「本当にキレイ！」「圧巻でした！」など、お褒めの言葉ばかりいただき、嬉しい限りです。うちの畑は他とは違う方法で植えているので、菜の花同士の隙間がほとんどなく、より密集しているように見えるのが特徴です。すでに来年もここに植えると決めていたので「来年も同じ場所でやりますのでまた来てください！」とお声かけをし、継続的な来場に繋げるということも大事だと思っています。

道内では他に滝川市の菜の花畑が有名ですが、田んぼのような平野部に植えられているところが多いんです。安平町の菜の花畑は丘地で傾斜となっていて、全く違う景観となっています。高低差で花が波打つように見えたり、1つの畑が面積が広いのが特徴で、黄色く染まった丘が北海道らしい風景、写真映える風景として人気となり、今年もSNSで多くの写真が投稿されていました。

これからの挑戦

菜の花は8月上旬に収穫を行い、乾燥調製を行ったあと搾油会社に出荷します。そこで搾油され、菜種油が生成されます。町では、その際にできた搾りかすを肥料にして野菜などを生産・販売する「菜の花野菜プロジェクト」という取り組みを進めていて、道の駅あびらD51ステーション内のベジステなどで販売されています。うちの畑でも今後、栽培する野菜の種類をもっと増やしていけたらなと思っています。町内で菜の花を栽培してみたいという方がいらっしやると思いますが、乾燥調製をする施設がないなどの問題を今後クリアしていかなければなりません。

今回初めて幌馬車をトラクターで引っ張り、菜の花畑を一周する乗車体験を行いました。乗車した方からは「見渡す限りの菜の花に感動！」「こんな経験、なかなかできない！」と好評だったので、来年以降は自分たちで幌馬車の製作を行い、より楽しんでもらえるような工夫をしていきたいです。

まだまだ町民の方に菜の花について知れ渡ってないと感じることがあり、町内や道の駅などでもっと知っていただけるような工夫や努力、発信などが必要だと思っています。町民の皆さんがもっとこの町を好きになってもらえるように、「菜の花のまち」と言ってもらえるように、たくさんの人に見に来てもらえるように生産者としても協力し、作るだけでなく、広めていく努力をしていきたいですね。

広報担当・小林より

菜の花の役目は、美しい景観を作り出すだけのものじゃない。そんなことを知っている人もいれば、知らない人も。安平町を象徴する景観の一つとして、多くの観光客を招いている「菜の花」について、地域おこし協力隊の木下さんに特集を手掛けてもらいました。Facebookでも菜の花に関する記事を投稿しているので、合わせてご覧ください！

